

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Fall 2009

Office of Professor Eiichi Hara
Department of English Literature and Culture
Tokyo Woman's Christian University
2-6-1 Zenpukuji, Suginami-ku, Tokyo 167-8585
<http://www.soc.nii.ac.jp/dickens/>



2009年11月30日

2009年秋季総会報告

Annual General Meeting 2009 at Tokyo Woman's Christian University



2009年度の秋季総会は10月17日（土）、東京女子大学（東京都杉並区善福寺）にて開催されました。参加者は約50名、研究発表の他、荻野昌利先生による特別講演が行われました。1998年に秋季総会が開催されて以来、11年を経て、事務局が再びこの善福寺の美しいキャンパスに帰ってきたわけで、感慨深いものがあります。当時日本支部長であった小池滋先生、それに松村昌家先生も顔を見せられ、会員の士気がいやが上にも高まりました。フロアからの刺激的な発言も相次いで、例年にまさる熱気にあふれた、活発な総会でした。総会を盛り上げていただいた参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。

日本支部長 原 英一

2009年度秋季総会 Annual General Meeting 2009

○ 2009年度会計報告（2008年10月1日～2009年9月30日）

中村財務理事から次の通り詳細な報告があり、これについて植木監事から会計監査の報告がありました。審議の結果、承認されました。

収入の部

収入名目	金額	備考
前年度繰越金	1,221,013 円	
会費	1,282,000 円	①一般会員 149 名分：(8,000 円×146 名 = 1,168,000 円) + (16,000 円×3 名 = 48,000 円) ② = 1,216,000 円 ②院生会員 11 名分：6,000 円×11 = 66,000 円 計 = ① + ② = 1,282,000 円
印税	43,200 円	『ディケンズ鑑賞大事典』の印税
預金利子	189 円	みずほ銀行の預金分の利子
寄付	23,600 円	①伊藤廣里先生からの寄付金 10,000 円 ②ディケンズ生誕 200 周年行事のプロジェクトのための寄付金の余剰金 13,600 円
合計 (A)	2,570,002 円	

②16,000 円の納入者 3 名は、08 年度の滞納分を含めての納入。

支出の部

支出名目	金額	備考
ロンドン本部へ	316,398 円	4,216 円 (ロンドン本部への年会費) + 312,182 円 (<i>The Dickensian</i> 購読料)
年報印刷費 (31 号)	282,240 円	
外部講師への交通費と懇親会費	53,120 円	2009 年春季大会講師：桑野佳明氏、斎藤兆史氏
消耗品代	1,760 円	ビデオテープ代
学生アルバイト代	10,000 円	2008 年秋季総会
郵送通信費 (振込手数料含む)	117,652 円	秋季総会・春季大会プログラム発送費、年報発送費、 <i>The Dickensian</i> 発送費、振込手数料、等を含む
合計 (B)	781,170 円	

◎収支決算 (次年度への繰越金)：合計 (A) 2,570,002 円－合計 (B) 781,170 円 = 1,788,832 円

2009 年度会計を以上の通り報告いたします。

2009 年 10 月 17 日

理事 (財務担当) 中村隆

上記の通り相違ありません。

監事 植木研介

○ディケンズ博物館 生誕 200 周年記念事業 Great Expectations 寄付について

ディケンズ博物館からの要請により、同博物館のディケンズ生誕 200 周年記念事業 Great Expectations への寄付のため、目標を 4 千ポンドとして募金を行いました。支部会員のご協力により、目標を達成することができました。

A：収入 (集まった寄付の総額)	B：支出 (£ 4,000 の寄付と送金手数料)	C：剰余金 (A-B)
647,000 円 (61 名からの寄付)	633,400 円 (下記の②+③+④)	13,600 円
	内訳 ①8 月 27 日の為替：£ 1 = 156.35 円 ②£ 4,000 = 625,400 円。 ③送金手数料 4,500 円。 ④支払先銀行 (NatWest) 手数料 (日本支部負担) = 3,500 円	

中村財務理事によりディケンズ博物館に送金されたのは 8 月 27 日でしたが、その後も多少の寄付が届き、それを含めての寄付総額が、647,000 円となりました。原支部長から、剰余金、13,600 円は、ディケンズ・フェロウシップ日本支部への寄付として受け入れたいとの提案があり、了承されました。

○生誕200年記念論文集の発行

論文集の発行に関して、編集委員会の構成は支部長と副支部長に一任することが了承されました。

○春季大会と秋季総会の一本化について (継続審議事項)

昨年の総会から継続審議となっていた「支部長からの提案」(春季大会と秋季総会を一本化して年 1 回の開催とすること)について、種々議論が行われました。その結果、支部長が提案を取り下げ、今後も年 2 回の集まりを持つことで了承されました。なお、プログラムの内容については理事会で検討を継続することになりました。

○来年の春季大会開催場所について

田中孝信氏のお世話により、大阪市立大学で開催されることになりました。

研究発表 Papers

司会 松村豊子 (江戸川大学)

ディケンズによる奴隷制度批判と 南北戦争前後のアメリカ

吉田 一穂 (甲南大学非常勤講師)



吉田氏の発表では、ディケンズとアメリカとの関係を、奴隷制度問題に焦点をあてて、検討が行われました。自由・平等・幸福を標榜するア



アメリカの矛盾の一つとしてディケンズは*American Notes* (1842)の中で奴隷制度を取り上げていました。吉田氏は、南北戦争前後のアメリカの状況を詳細にたどりながら、ディケンズと奴隷制度の関係を論じました。後半ではディケンズからいささか離れて、アメリカ史概説になった感がありましたので、もっと的を絞れば、有意義な内容となったことでしょう。富山太佳夫氏など、フロアからの刺激的な発言があり、これには聴衆も大いに啓発されました。



Great Expectations と『坑夫』の一人称の語り ——非教養小説における視点と主人公 川崎 明子 (駒澤大学専任講師)

川崎氏の発表は、*Great Expectations*のピップと夏目漱石の『坑夫』の主人公の比較が行われました。両作品の主人公の視点とアイデンティティの比較を通して、ピップの一人称の語りの特徴を明らかにすることを試みたものでした。それぞれの冒頭の部分の詳細なテキスト分析が行われ、そこにいかなる特徴が読み取れるのかが、検討されました。野心的かつ刺激的な内容でした。フロアからも意義のある発言が次々に発せられ、活発な質疑応答によって、全体として、大変充実した研究発表となりました。



特別講演 Special lecture by Professor Masatoshi Ogino



司会 原 英一 (東京女子大学) ディケンズの小説空間 ——Little Dorritを中心にして——

荻野 昌利 (南山大学名誉教授)

今年の総会では、日本支部のため長年貢献され、今年度をもって退会されることになった荻野昌利先生に特別講演をお願いしました。今回のご講演は、先生の最新刊『小説空間を「読む」——ジョージ・エリオットとヘンリー・ジェイムズ』（英宝社、2009）の「続編、姉妹編」となるもので、『リトル・ドリット』を取り上げられました。講演では、小説の冒頭、ざらざらした太陽の照りつけるマルセイユと、それとは対照的なロンドンの陰鬱なシティスケープの分析から始まり、ディケンズが、「ヨーロッパ全体を取り込んだ大きな幾何学模様の大枠を設定し」、その構図の中に「小説の中心主題である欲得に取り憑かれた人間どものさまざまな囚われの空間を巧みに配置」していく様が、論じられました。英米の小説についての該博な知識に裏づけられたお話は、実にスケールが大きく、ディケンズの小説空間の雄大さをあらためて実感させてくれるものでした。

懇親会 Party

総会終了後、約40名がタクシーに分乗して、吉祥寺第一ホテルに移動、懇親会が開催されました。いつにもまして盛り上がった総会の興奮と熱気はここにも持ち越され、フェロウシップ精神の横溢する賑やかな歓談が続きました。ホテルから徒歩5分ほどの「居酒屋 土間土間」に場所を移しての二次会には18名が参加。ますます熱気が高まったところに、日本英文学会の丹治愛会長、原田範行事務局長（東京女子大学）、『英文学研究』編集委員等、計6名が乱入（駒場で編集委員会があったようです）。隣の人と会話するのも困難なほどの喧噪となりました。（丹治会長いわく、「ディケンズの会って楽しいんだね。」）原田事務局長に率いられて、さらに三次会へと向かう日本支部+日本英文学会の集団を後に残し、私は退散いたしました。吉祥寺の夜は長かったようです。



ますます熱気が高まったところに、日本英文学会の丹治愛会長、原田範行事務局長（東京女子大学）、『英文学研究』編集委員等、計6名が乱入（駒場で編集委員会があったようです）。隣の人と会話するのも困難なほどの喧噪となりました。（丹治会長いわく、「ディケンズの会って楽しいんだね。」）原田事務局長に率いられて、さらに三次会へと向かう日本支部+日本英文学会の集団を後に残し、私は退散いたしました。吉祥寺の夜は長かったようです。（原 英一）

訃 報 Obituary

伊藤 廣里 氏 Professor Hirosato Ito

日本支部会員の伊藤廣里先生（実践女子大学名誉教授）が、2009年8月15日に逝去されました。日本支部草創期からの会員であった伊藤先生は、1978年に刊行された『日本支部会報』の創刊号に、「ディケンズ文学の旅」と題するエッセイを寄せています。その後、1996年に、このエッセイと同じタイトルの『ディケンズ文学の旅』という本を出版されました。先生のディケンズ文学に対する深い理解と愛情は、この著書や、同年出版された『クリスマス・キャロル』の翻訳によって、知ることができます。ご自宅の離れをディケンズの邸宅の名前をとってギャッツヒルと名づけられ、その書齋でディケンズを読みふけり、『炉辺のおおろぎ』など、翻訳に力を注いでおられたとのこと。ご家族によれば、数年前から闘病されていたそうですが、フェロウシップの会には、念入りに体調を整えて出かけておられたとのこと。私たちにはご病気のことなど、全く感じさせませんでした。風格あるイギリス紳士そのものという風貌であり、真のディケンズアンでした。心よりご冥福をお祈りします。

諸 報 告 News and Notices

(1) 『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第32号発行の遅れについて【お詫び】

諸般の事情で、『年報』第32号の発行が大幅に遅れております。ご寄稿いただいております方々には誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。鋭意作業を進めておりますので、いましばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます。このニューズレターも本来なら『年報』に同封するものでしたが、大幅な遅れのため、とりあえず先に皆様にお届けすることにいたしました。

We apologise for the delayed publication of the *Annual Japan Branch Bulletin* No. 32. It is expected to be delivered to members in a few weeks.

(2) A vote of thanks to the Japan Branch for its generous donation of £4,000 to the Dickens Museum passed unanimously at the Dickens Fellowship Council Meeting 2009

2009年10月24日に、ロンドン本部でCouncil Meetingが開催されました。日本支部からの出席者がありませんでしたので、例年通りマイケル・スレーター氏に代理をお願いいたしました。当日、honorary general secretaryのJoan Dicks氏により、日本支部からディケンズ博物館へ多額の寄付があったことが報告されました。スレーター氏によりますと、「日本支部への感謝決議が全会一致で採択された」とのことです。詳細な議事録はメーリング・リストで会員に配布しておりますので、ご覧ください。

(3) 会費の納入について

新年度の会費につきましては、間もなく発行される『年報』第32号に郵便振替用紙を同封いたしますので、それによりご納入ください。一般会員8,000円、学生・院生会員6,000円です。A postal transfer slip will be enclosed in the forthcoming number of the *Bulletin* for remitting annual membership dues (8,000 yen for regular membership or 6,000 yen for student membership).

2010 年度春季大会予告および研究発表募集 2010 Annual Conference

The Japan Branch annual conference will be held at Osaka City University on 12 June, 2010.

2010年度春季大会は、田中孝信氏のお世話により、6月12日（土）に大阪市立大学で開催されます。

大会のプログラムについては、現在理事会で検討中ですが、会員の皆様からシンポジウムなどのご提案がありましたら、事務局までお寄せください。

研究発表募集 Call for papers

○ 研究発表を募集します。ご希望の方は、以下を支部長まで電子メールで提出してください。これまでとは(3)のところが変わっていますので、ご注意ください。締め切りは2010年4月10日です。

An application for a paper to be presented at the conference should be sent by e-mail to the Branch secretary by 10 April, 2010. It should include an abstract of about 1,000 words as well as a brief summary of 200 to 300 words.

(1) 発表タイトル

(2) 発表要旨 日本語で400字程度、英語の場合は200~300語程度（プログラム掲載用）

(3) 発表内容 日本語で1,200~2,000字程度、英語の場合は1,000語程度（審査用）

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒167-8585 東京都杉並区善福寺27-1

東京女子大学 現代教養学部 英語文学文化専攻 原英一研究室

電子メール: hara12cdfj48@ktb.biglobe.ne.jp 電話: 03-5382-6348 (原支部長直通)